

# 武田氏と富士宮

## 武田氏の河東支配

1569年、大宮城(大宮小学校周辺)を手に入れた後、武田氏は、約13年間、河東(富士川から東の駿河国一帯)を支配しました。

武田信玄から、郡司\*1に任命された家臣の原昌胤は、1570年に大宮城の修築を行い、軍事拠点としての強化を図るなど、大宮城を拠点に駿河国の一部の支配を担当しました。

同年、信玄は、駿河国に侵攻し、北条氏の城を攻撃しました。このとき、信玄は、大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)に「武田信玄願文\*2」を捧げ、北条氏の滅亡を祈りました。

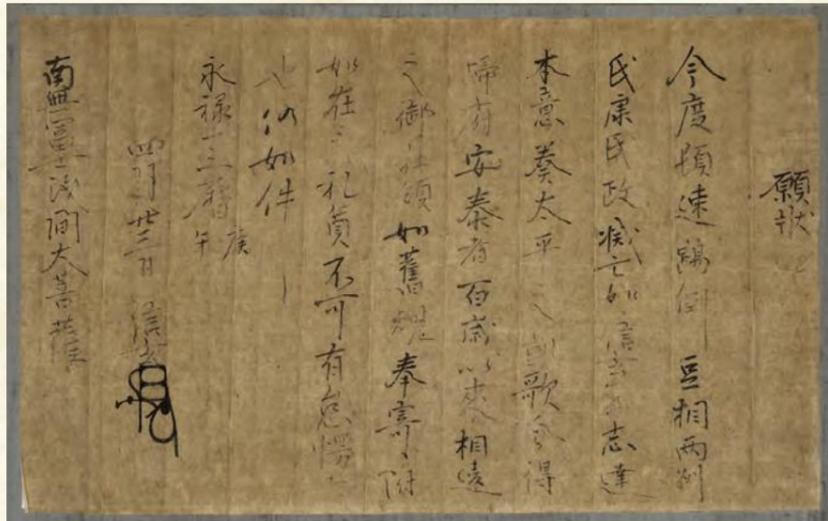
- ※1 行政長官
- ※2 神仏に願いを込めて捧げる文書

## 信玄の領国経営

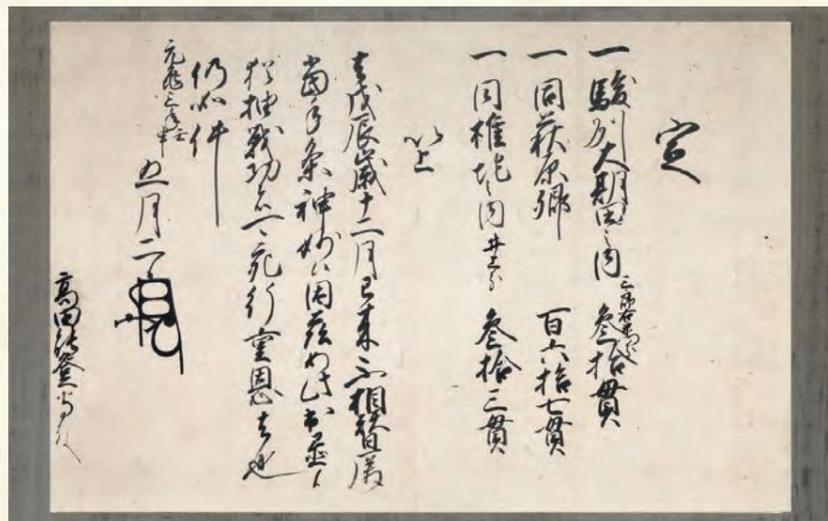
信玄は、北条氏康の死後、子・氏政と、北条氏との同盟を復活させました(甲相同盟)。

和議の結果、河東地域の多くの領地が北条氏から武田氏に譲られました。信玄は、家臣に河東地域の土地を与える判物\*3を出したり、大宮城の改修や、大宮浅間神社の立て直し、麓金山の開発\*4を行うなど、駿河国での領国経営を始めました。

- ※3 戦国大名などの花押(サイン)のある文書
- ※4 採掘された金を、金貨に使用したり、家臣に褒美として与えた。



▲武田信玄願文(1570年4月23日/富士山本宮浅間大社蔵)



▲武田信玄判物(1572年5月2日/富士市立中央図書館蔵)

## 富士郡の領主「富士氏」

富士氏は、戦国時代、大宮浅間神社の神職(大宮司)を務め、富士郡(富士宮市一帯)を治めた一族です。

今川氏と北条氏が河東を巡って争った河東一乱で、富士宮若が小泉上坊に陣取って北条氏と戦ったり、武田信玄による駿河国侵攻で、大宮城に籠城し武田軍を2度退けるなど、武士としても活躍しました。



1569年、武田氏の攻撃に耐えきれず、信玄が大宮城を明け渡した富士信忠と子・信通は、大宮を離れた後、甲府などで信玄に従いました。

武田氏の政策により、大宮周辺が、軍事的な拠点から宗教的な拠点へ切り替えられると、1577年、信通は武田勝頼から大宮浅間神社の大宮司を継承することを認められました。

## 武田氏と大宮浅間神社

信玄は、神職に対し権利や身分を保障し、戦乱でいなくなった継承者を再編成しました。また、領地を整理したり、家臣の子を神職として送り込んで神社内を統制するなど、大宮浅間神社の立て直しを行いました。

1573年、信玄が死去すると、子・勝頼は信玄の政策を引き継ぎ、1576~1578年、大宮浅間神社の造営\*1や遷宮\*2などを行ったほか、年間祭礼や資金などを細かく整理させました。

勝頼は、遷宮の間、まちなかの治安を乱す行為を固く禁止する朱印状を発行しました。

- ※1 社殿を建てること
- ※2 神を新しい社殿に移すこと

## 勝頼の領国経営

勝頼は、駿河国と甲斐国を結ぶ中道任遠(甲州街道)沿いの根原村などの集落に、伝馬制度\*3を定めるなど、交通制度の整備を行ったり、毎月6度、大宮西町で新しく市を開くことを定めた掟書を出しました。

- ※3 宿駅に人馬を常駐させ、宿場ごとに人や公用の荷物を交替して運ぶ制度



▲武田家朱印状(1578年/静岡県立中央図書館蔵)

## 戦国最強の騎馬隊を率いた甲斐の虎「武田信玄」

信玄は、父・信虎を追放し、武田氏の第19代当主になると、「風林火山」の軍旗を掲げ、圧倒的な強さを誇る騎馬隊を率いて、甲斐国(山梨県)から、信濃国(長野県)、駿河国(静岡県東部)などに勢力を拡大しました。領国内の交通路の整備や農業振興を進めたほか、金山の開発に力を入れ、甲州金(金貨)を作るなど、経済を発展させました。

1572年、徳川氏の領地(遠江国・三河国)に侵攻し、織田信長との戦いを目指す途中、病に倒れ亡くなりました。



▲武田信玄像(山梨県立博物館蔵)

## どうなる家康 「宿敵・武田信玄」



1570年、武田信玄が駿河国を支配下に置くと、家康は、武田氏の侵攻に備え、長男・信康に岡崎城を譲り、遠江国の浜松城に移りました。



家康は、織田信長と信玄との関係を破綻させようと、長く信玄と対立していた越後国の上杉謙信と信長を結び付けたほか、武田氏と絶縁し謙信と同盟を結びました。



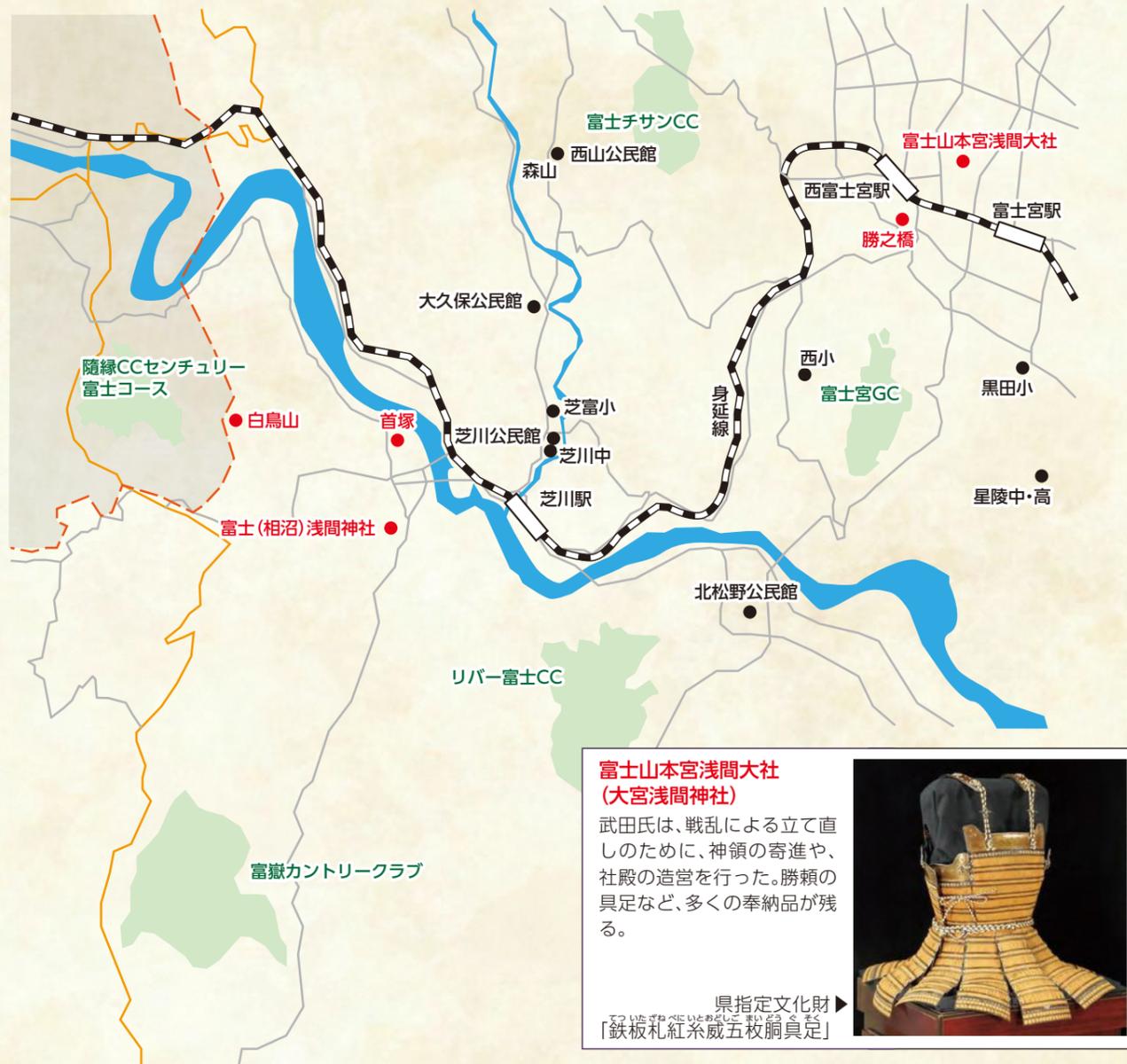
1572年、信玄から攻められた家康は、遠江国の一言坂(天竜川の東)、二俣城(浜松市)、三方ヶ原(浜松市)などで敗れました。



1573年、信玄が西へ進軍する途中、病に倒れたため、家康は、武田氏の三河国侵攻の拠点となっていた長篠城などを攻め落とし、勢力を盛り返していきました。

# 武田氏と富士宮

## ゆかりの地



### 富士山本宮浅間大社 (大宮浅間神社)

武田氏は、戦乱による立て直しのために、神領の寄進や、社殿の造営を行った。勝頼の具足など、多くの奉納品が残る。

県指定文化財  
「鉄板札紅糸威五枚胴具足」



**白鳥山**  
山城が築かれ、武田信玄の駿河国侵攻の際、のろし台として使われたとされる。



**首塚 (胴塚)**  
武田軍と今川軍の「内房口の戦い」の戦場で討ち死にした者の首や胴を葬った場所といわれる。



**富士(相沼)浅間神社**  
武田信玄に従っていた、穴山信君にゆかりのある神社といわれる。



**勝之橋**  
江戸時代の「駿河記」によると、武田信玄が駿河国侵攻の際、和歌を詠んだと伝わる。

## 武田氏の家臣として活躍した「山本勘助」

江戸時代初期の「甲陽軍鑑」などでは、

- 勘助は、三河国牛久保の出身で、若い時に各地を旅して兵法や築城を学んだ。
- 武田信玄に召し抱えられ、軍勢を率いる足軽<sup>\*1</sup>の大将として活躍した。
- 信玄と上杉謙信が戦った川中島の戦いでは、「きつつき戦法<sup>\*2</sup>」を提案した。とされています。

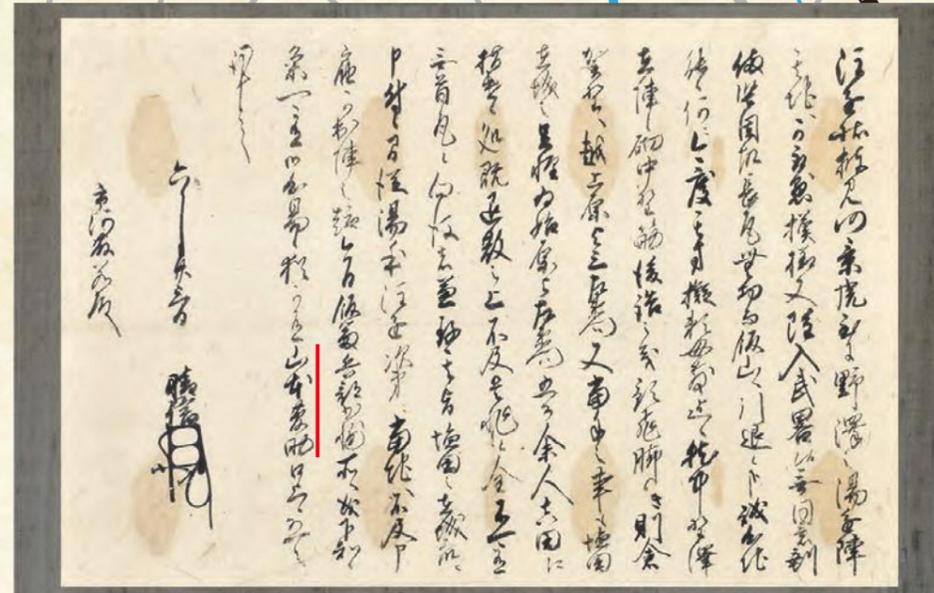
江戸時代後期の「甲斐国志」では、勘助は駿河国富士郡山本(富士宮市山本)の出身とされています。

勘助は、かつてその実在を疑われていた時期がありました。しかし、1969年、「山本菅助」の名が記された信玄の書状が発見され、書状から、菅助(勘助)が信玄の使者<sup>\*3</sup>として活躍したことがわかっています。

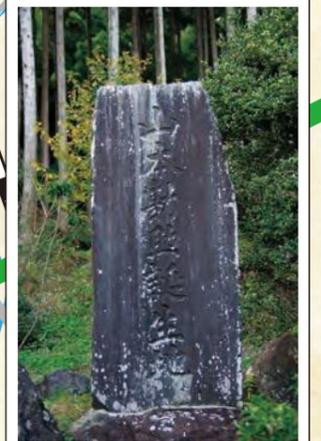
- \*1 弓や槍などの武器を持ち、軽装で戦う農民や下級武士
- \*2 山の上に陣を構える上杉軍を攻撃して、山から下りたところを攻撃する作戦
- \*3 大名の意思を伝える人



山本勘助像(山梨県立博物館蔵)



▲武田晴信(信玄)書状(1557年6月23日/山梨県立博物館蔵)



**勘助誕生地の碑**  
大正13年、昭和天皇の御成婚を記念して、大宮町山本の青年団によって建てられた。